

秋の森林散策会 錦仙峡

滝・溪流・紅葉に感動！

10月12日（土）、総勢43名の参加で秋の森林散策会「錦仙峡」を行いました。

数日前からの台風情報に加え、相次ぐイベント中止の流れもあって「また中止になるかも・・・」と実施が危ぶまれましたが、当日は多少肌寒いながらもまずまずの天候でした。



錦仙峡は、滝上町市街地を流れる渚滑川の兩岸に設置された「北海道観光百景」「美しい日本の歩きたくなる道500選」などに選ばれている遊歩道で、紅葉真っ盛りでした。



スタート地点の「虹の橋」で集合写真を撮った後、6班に分かれてガイドとともに散策、カエデとモミジ・紅葉と黄葉の違い、ドングリの豊凶などの話を聞きながら道の駅までの約3.0kmを1時間30分ほどかけて散策しました。

カエデ、ナナカマド、ミズナラなどの紅（黄）葉と大小さまざまな滝や岩肌が織りなす風景に「紅葉の美しさに感動！」「こんな良い所があったなんて！」「まるで奥入瀬溪流みたい」などの声がありました。

散策後は、道の駅たきのうえで購入した地元の特産品をおみやげに帰路につきました。

<吉田昭>

SNSで発信も！

秋の森林散策会

滝上町「錦仙峡」は、夫婦ともども初めて行った場所で、渚滑川の流れや紅葉がとってもきれいで大変感動しました。



ぜひ、このような場所を広く知ってもらうためにSNS等で写真を公開していくことが重要だと思いました。

また、散策の途中にも要所ごとに解説をいただき、大変勉強になりました。

私たちは転勤族で一か所に留まることができず、行った地域の見どころを楽しむことが趣味になっており、道東は風光明媚な所が多く、大変感激しています。

また、オホーツクの会の方々の生き生きとした活動に、将来、退職した時には皆さんのように活動してみたいと思いました。

今回は、大変すばらしい体験の機会を頂きありがとうございました。

<法村賢一・洋美>

紅葉に癒され…

一度は訪れたいと思っていた秋の錦仙峡！そして、「今が見頃、紅葉の錦仙峡！」と聞き、ワクワク気分で参加しました。



紅葉した落葉がハラハラ舞い散る遊歩道をカサカサと歩くのも楽しく、カエデ、モミジ、ナナカマド等が、赤・黄・橙と色づいた鮮やかな景色は、ヨーロッパの絵葉書のように、それは見事な紅葉で、ガイドさんのカエデとモミジの色と葉の違いや雪虫の話もわかりやすかったです。

また、大小さまざまな滝と清流がすがすがしく、自然の織りなす紅葉とのハーモニーにとっても癒されました。

お世話いただいた会の皆さん、ありがとうございました。

<土門 美喜子>

岩

激流

見事な景観

滝

紅葉

数日前からの台風接近報道に散策会ができるのか心配していましたが、穏やかな天候に恵まれほっとしました。

途中の車窓から見える山々も紅葉が始まっているようでしたので、現地の景色に期待も高まります。

目的地について、バスから降りると他の観光客が大勢歩いていて、集合写真もそこそこにガイドさんの案内で遊歩道に入りました。

眼下に広がる錦仙峡のすばらしい紅葉に圧倒されました。

渚滑川の激流、両岸の岩肌、支流から落ちる滝、そこに今を盛りの紅葉が重なって本当に見事でした。

企画・運営に当たられた皆さん、ガイドいただいた皆さん、大変お世話になりました。

<中野 富美子>



散策会の下見を兼ねた「自然に学び隊」(9月19日、参加者11名)の際は、「〇心と秋の空」と言われるように天候が目まぐるしく変わる一日。

歩き始めたら突然の雨、カッパを着たら青空に、暑くて脱いだら土砂降り…。

観光協会での情報収集、ルート確認、所要時間、ガイドポイント…成功の陰に努力あり。(お疲れさまでした!)

<吉田昭>



森へおいでよ！ パネル展

新作も展示！

9月28日（土）～10月6日（日）、北見市緑のセンターで、常呂川FCとの共催により、一般市民に森林づくりの楽しさや大切さを理解していただくため「森へおいでよ！パネル展」を開催しました。



「ふれセン」からは、「オホーツクの森」の自然再生モデル事業や自動撮影カメラがとらえた野生動物の写真、植物の花の写真が展示され、身近に自然のすばらしさがたくさんあることなどが紹介されました。

当会からは、吉田会長や渋谷さんの自然素材を活用したクラフトの新作や、鎖チェーンに磁石で取り付けた額縁入り4枚組のシナノキ、エゾマツ、ツルアジサイの組写真が新たに加わり、秋・冬の散策会の写真集でいままでの森林散策を、また森林ボランティア活動、自然の中で体験する「こども探検隊」などの楽しそうな写真パネルを展示しました。



展示初日には、澤井会員が北見歩こう会の仲間35名を連れて見に来てくれました。

普段の日は、会員の知人、緑のセンター近郊の人、最近北見に転入してきた自然に興味のある人が目立ちました。

展示後半の土日は天候に恵まれず、他の催しとも重なって子供連れの家族がまばらで、工作づくりや竹とんぼのお店を開いていた会員の先生達は暇をもて余しぎみ…それでも来場者は、展示された作品に見入ったり、マツボックリ工作や竹とんぼを作って楽しんでいました。

今後もパネル展を通じて多くの市民に森林のすばらしさ、大切さを訴えるきっかけになるよう、内容を充実させたいと思います。

<植村>

第2回森林づくり塾

苗を学び 苗を植える

10月19日(土)、今年度2回目の森林づくり塾(主催:常呂川FC)が8名の参加で行われました。

午前中は、自然再生モデル林の補植作業～植栽木が枯れた箇所^のササを刈り、土を掘り起こし、森の家周辺で育てられ1.5~2mの大きさになったミズナラ・ハルニレをチョット息切れしながら11本植えました。

最後に、来春芽吹いてくれるようお願いをこめて水をやり、作業を終えました。

午後からは、雲行きが怪しくなる中「(有)樹薬種苗^{きしべ}」へ向かいましたが、着くころには雨がポツポツと・・・。



樹薬種苗の中島紀男さん(自然再生モデル事業企画運営協議会会長、当会会員)の案内で作業室に入るとアカエゾマツ、カラマツの苗木が山積され、春・秋に採取した色々なタネが干してありました。

屋外には、この春に蒔かれたタネから色々な葉を出している苗木ポットが、苗木の種類・生育状況が分かるように整然と並び、27種類との説明にビックリ、苗づくりは地道で根気が必要ということを感じました。

<小島>

なるほどクイズ

(答えは会報のどこかに...)

仁頃山 829m、緑岳は標高年(2019m)など、山の高さや土地の高さを表す時、標高とか海拔という表現をします。



また、標高は「造林木が育つことが可能か」など、森林づくりにも大事な判断因子です。

ところで、「標高」と「海拔」の違い・・・わかりますか？

第5回自主活動

泥だらけで頑張る！

第5回自主活動は、9月18日（水）、8名の参加で常呂川FCの要請を受けて、「古の森」遊歩道の整備（木橋の架け替え）、森林づくり塾に向けた苗木の掘り起こしなどを行いました。

木橋の架け替えは、技術・体力を考慮して選抜された4名（栄、長谷川、植村、吉田正）により、現在の腐朽が進んでいる橋の撤去からスタート、土木・建築の技術と経験と腕力を駆使して、泥だらけになりながら頑張りました。

残りの4名（小島、小林、渡部、渋谷）は、森の家周辺での作業～苗木の掘り起こしでは7～8年前に植えたミズナラの絡み合った根を分け（切断し）、森林づくり塾に備えました。

また、10周年記念植樹のミズナラを動物（鹿・ウサギ）の食害から守るための防護ネットを設置しました。

<小島>

【なるほどクイズ】 答え

「標高」は土地や山の高さを表す場合、「海拔」は津波や高潮対策などの場合に使用します。



標高＝国土地理院（測量法）では、東京湾の平均水面を標高0mの基準面としています。

海拔＝近隣の海面からの高さを表します。

とは言っても、標高・海拔の数字が異なると様々な混乱が生じることから、一部の離島を除いては同じ数字が使われ、国会前庭にある「日本水準原点」を基準に測量されています。

全国各地にある水準点、土木工事のBM（ベンチマーク）などは、すべて日本水準原点に基づいたものです。

第6回自主活動

ヤマブドウにビックリ！

10月8日（火）、今年最後の自主活動は、古の森歩道とふれあいの森整備、樹木博士に向けた看板整備、森の家周辺の整備などを行いました。

古の森歩道整備では、解体した木橋の木材を再利用して湧水地までの歩道（木道）を作成、卯原内川の源流を間近に見ることができるようになりました。



ました。

また、ふれあいの森（展望台周辺）では、「昨年植えたエゾムラサキツツジがどこにあるか分からず作業しづらい」の声を受けて、周辺を刈払うとともに表示しました。

樹木博士に向けた看板整備では、今回の作業でほぼ設置終了（約40本）となり、次年度以降の活用が期待されます。

また、今回はFCの案内でヤマブドウの収穫も体験させていただきましたが、鈴なりに実ったブドウにビックリ！（ザルに山盛りで収まらず…）

みんなで持ち帰り、生食、ジュース、焼酎漬けなど、オホーツクの会の特典（？）、秋の味覚も楽しむことができました。

なお、参加者は次のとおり、お疲れ様でした。

【栄、長谷川、植村、小山、小林、吉田正、渡部、渋谷、小島】

<小島>



山になったブドウ

だからヤマブドウ…

炭作り & 色いろ食べ隊

おいしく、楽しく、炭づくり

晴天の11月2日(土)、森への車中から見えるカラマツの黄金色のグラデーションに感動しながら「森の家」へ到着。

栄副会長の「今年最後の活動です。みんなで楽しみましょう！」のあいさつでスタート、さっそく持ち寄った材料(木の実、ミカン、ビスケット等)を缶に入れて、炭焼きスタートです。



焼き上がりを待つ時間(約1時間)、火の番、調理担当、展望台おさんぽコースと分かれての行動。

展望台グループが戻るころには、飾り炭(1回目)も出来上がり、第2弾・第3弾と次々にストーブに上がります。

同時に、料理も次々と完成、串焼き、湯豆腐(もどき)、アメマスのフライ(金村さんの差入れ)、おしるこ etc...おいしく、楽しく、いただきました。



ただ残念なのは、出来上がった作品(飾り炭)の多くが吹き付けた突風に飛ばされて粉々になってしまったこと・・・。

また、当日の活動は北海道新聞(11月6日、朝刊)にも大きく掲載されました。

なお、参加者多数(総勢21名)のため、氏名報告は省略させていただきます。

<渋谷>

炭作り & 色いろ食べ隊

味覚を堪能！

炭が出来上がるまでの時間、晩秋の展望台へ向かう。木々は落葉し、見通しも良く、網走湖、能取湖、知床連山の眺望を楽しみ、大自然の雄大さを認識できた。

落葉のじゅうたんを踏みしめながら、散策路を下り、ゆく秋の寂しさと秋の深まりを感じる。

森の家へ戻ると「ホオの実」のお茶が用意されていた。あの大きな赤い実がお茶に…何とも美味なお茶体験だった。



飾り炭も出来上がり、カメラに収めたり、ケースに入れたり、炭化したオブジェには素朴な美しさがあった。

汁粉、鳥串、湯豆腐、かぼちゃ、じゃがいも、アメマスのフライ…次々と味覚を堪能した。



野外の食事は開放的で、屋内では味わえない美味さと新鮮さがあり、用意したおにぎりを食べることもできないほど満腹となった。

企画・担当の準備、進めも見事だったが、参加者にも役割分担があると組織・集団としての自覚も高まったと思われた。

食べること、見ること、作ることは、人間生きるために必要な営みであることを改めて思い知った一日であった。

「炭作り隊&色いろ食べ隊」に感謝！

紅葉のチミケツプ

歩きごたえも・・・

見ごたえあり！

晴天の10月24日(木)、「チミケツプ湖一周ウォーク」(主催：オホーツクみどりネットワーク)が行われました。

参加者は、キャンプ場に集合、野鳥コース→樹木園コース→道道→西湖畔コース→道道→キャンプ場の約10kmを5時間弱かけて散策(含む昼食)しました。

すでに落葉している木もあり、紅葉はピークを過ぎている感はありましたが、全体的に色濃く、湖と一緒に見る景色は見ごたえがありました。

ただ10kmはキツイかな・・・少し歩き疲れました。

なお、当会からの参加者は次の4名です。

【小島、渋谷、土門、小林】

<小林>





※ 申し込みは、別紙申し込み用紙を活用下さい

○冬の自然観察会

日時 2020年3月1日(日)
常呂川FCより貸し切りバスが出ます。
集合 8:30
出発 8:45
到着 15:30予定

場所 サロマ湖畔遊歩道
内容 スノーシューを履いての森林散策他
持ち物 森林散策できる服装、昼食、飲み物他(スノーシューは無料で借りることができますが、お持ちの方はご持参ください)

参加費 200円(保険料等)
申込み 2月20日(木)まで

★散策会の下見を兼ねて「自然に学び隊」活動を行います。

2月17日(月)、参加希望者は、2月10日(月)までに連絡願います。(詳細は参加希望者に連絡します)

○第12回総会

日時 2020年3月14日(土) 10:00~
場所 常呂川森林ふれあい推進センター 2階会議室

森林

写真で伝えよう!

自然

「活動広め隊」では、森林・自然のすばらしさを一般市民へPRするための**写真展**(コンテストではありません)を計画しています。

時期 2020年4月中旬(予定)

場所 NHKぎやらりー

自然、生き物を題材にした「私の好きな自然」【2L版4枚1組】を一般市民を含めて広く募集します。(3月末まで)

会員の皆さんの積極的な出展をお願いします。

詳細・問い合わせは植村または渋谷まで。

<活動広め隊隊長 植村>

木々に関するつぶやき

【ハルニレ】

アカダモ、ニレ、エルムという別名を持つ高さ 30m、太さ 150 cm以上になる落葉広葉樹。

平地の肥沃なところに生えることから、北海道開拓の人たちはハルニレのあるところを目印に入植したという。

春に開花し、結実することから「ハルニレ」、本州（主として西日本）には同属で秋に開花するアキニレもあるそうだ。



会費納入のお願い

当会は皆様からの会費を基に活動を進めており、滞納者が増えると運営に支障を来すことが避けられません。

年会費を滞納し続けた場合は、継続の意思がなく退会と判断せざるを得ません。（退会される方は事務局へ一報願います）



心当たりの方はよろしくお願ひします。

— 納入方法 —

- ・ 総会および会が主催・参加するイベント時に納入
(会報等でご確認ください)
- ・ 常呂川森林ふれあい推進センター内の事務局に納入
- ・ 会の郵便局口座に振り込む(手数料がかかります)

振込先口座 19960-8073231

森林ボランティア「オホーツクの会」

お問い合わせ



北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター内
森林ボランティア「オホーツクの会」事務局

〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11-3

TEL 0157-23-2960 FAX 0157-26-2144